

ヌナブト準州概況

在カルガリー総領事館

平成28年7月

一 般 情 報	2. 予算	10. 投資環境:
<p>1. 面積: 2, 093, 190平方キロ (日本の5. 53倍)</p> <p>2. 人口: 3. 7万人 (2014年)</p> <p>3. 州都: イカルイット</p> <p>4. 州祭日: 特になし</p> <p>5. 沿革・歴史: ヌナブト準州・北西準州の歴史は、カナダ発展に伴う分割、縮小の歴史であり、古くは1670年のルパーツ・ランドに由来する。ハドソン湾公社が所有していたルパート・ランド(Rupert's Land)が1870年にカナダ連邦政府に売却されたことに始まり、その後順次マニトバ州、プリティッシュ・コロンビア州、ユーコン準州、アルバータ州、サスカチュワン州が独立。1912年に残りの部分が北西準州の形になった。1999年4月1日、北西準州はさらに北西準州とヌナブト準州に分割された。</p>	<p>歳入: 17. 3億加ドル (2015年度) 歳出: 15. 4億加ドル (2015年度)</p> <p>3. 連邦政府との関係: 連邦政府の財政供与及び交付金に依存しており、経済開発の基盤を固めるため、天然資源開発のロイヤリティー取得権、課税権を要求している。また、経済開発のための公共投資、インフラの整備に連邦政府の支援強化を要求している。連邦政府に対しては西部諸州の一員の姿勢で臨んでいる。 自治権委譲(devolution)に関しては、基本合意を目指して交渉が行われている。</p>	<p>上記のような経済環境から準州政府及び住民にとって安定的かつ持続的な経済の構築は重要な意味を持っている。特に天然資源産業における更なる企業・投資の誘致は不可欠であり、ウラン、金、ダイヤモンド、銅、ニッケル等に関し、国内外を通じて広く企業の進出・投資の誘致を図っている。投資環境の整備としては法人税の定率化など税制面で優遇策を取っている。また遠隔地医療を促進するための投資の増大は、広大な領土を有する準州政府にとって住民生活の質の向上に直結するため大きな意味を持っており、積極的に取り組んでいる。</p>
政 治 体 制	経 済	日 本 と の 関 係
<p>1. 司政官(Commissioner): ネリー・カサガク (Nellie T. Kusugak) 2015年6月就任</p> <p>2. 準州首相: ピーター・タプトゥナ 所属政党: なし</p> <p>3. 議会の構成: (総数22議席) 選挙日: 2013年10月 議会は政党制ではなく、単純多数(コンセンサス方式)を基に合議制により運営されている。</p> <p>4. 内政状況: 1999年北西準州の東半分を分割して設立された準州であり、北西準州同様、限られた自治権しか連邦政府から譲渡されていない。人口の8割以上は北方先住民のイヌイットで、英・仏以外に2つのイヌイット言語が公用語に指定されているが、同言語の使用率は著しく低下しており、準州全体をあげてイヌイット言語の再普及に力を入れている。 2013年10月に実施された準州議会選挙の結果、ピーター・タプトゥナ副首相が新首相に選出された。 同準州は豊富な天然資源を擁しているが、高い失業率・犯罪率・アルコールと薬物中毒・自殺率、インフラの立ち後れ等、多くの社会問題を抱えており、政権運営は容易ではない。</p>	<p>1. 主要産業: ・天然資源…銅、ニッケル、鉛、亜鉛、金、ダイヤモンド ・建設業 ・毛皮産業 ・観光業 ・民芸品</p> <p>2. 実質GDP: 20億加ドル(2014年)</p> <p>3. 実質GDP成長率: 3.3%(2014年)</p> <p>4. 消費者物価指数(イカルイット市、2002年12月=100): 121.7(2016年2月)</p> <p>5. 失業率: 13.5%(2016年第2四半期)</p> <p>6. 貿易額: (1)輸出: 1.1億加ドル(2015年) (2)輸入: 0.6億加ドル(2015年)</p> <p>7. 貿易品目: (2015年) (1)輸出: 冷凍魚、電気機器部品、標本等 (2)輸入: 原油、航空機</p>	<p>1. 全般: 邦人の同地への訪問はごく一部に限られている。</p> <p>2. 要人往来: 特になし</p> <p>3. 経済関係 (1)概要及び日本への期待: ウラン・銅など、資源分野への日本企業の進出に対する期待は高い。 (2)対日貿易額 (a)輸出: 6.0万加ドル(2015年) (b)輸入: なし(2015年)</p> <p>(3)主要品目(2015年) (a)輸出: 大豆、バッグ・ケース類 (b)輸入: なし</p> <p>(4)日系企業の進出状況(2015年): 1拠点</p> <p>4. 文化・広報関係: ケーブ・ドーセットには、日本の版画技術を採用入れた版画芸術が存在し、版画を通じた日本との交流も行われている。また、現地のイヌイット版画家が制作した版画作品は、在京カナダ大使館を始め、カルガリーのアルバータ芸術デザイン大学(ACAD)においても展示された(2013年)。</p>
現 政 権 の 方 針 と 予 算	<p>8. 貿易相手国: (2015年) (1)輸出: 中国 ドイツ メキシコ (2)輸入: 米国 英国 フランス</p> <p>9. 経済概況: 銅、ニッケルなどを中心とした天然資源産業が同準州の主要産業であるが、就業者の内訳は同準州以外からの労働者が85%を占めており、主要産業でありながら準州内の住民にとっては主要な就業先でないという矛盾が見られる。カナダ国内でも特に緯度の高い地域に属するため、建設・観光といった産業も厳しい気候環境から期間限定の経済活動とならざるを得ず、民芸品関係の産業を除くと政府関係機関が住民にとって重要な就業先となっている。また、地域により狩猟を中心とした伝統的な自給自足の生活を営む住民もいる。</p>	<p>5. 在留邦人数: (2015年10月現在※在留届ベース) 3人 (男2人、女1人)</p> <p>6. 姉妹都市関係: なし</p>
<p>1. 方針: ・医療制度及び社会保障制度の充実を促進させ健全な社会の構築を目指す。 ・様々な点で簡素化を図り、より明快な政府・議会・経済の運営を目指す。また様々な文化が混在する今日においても伝統文化を尊重し、準州内の住民すべてが共生する社会を構築する。 ・経済の発展を促し、準州民が様々な点でより多くの選択の機会を持ち、結果としてより豊かな生活を送ることの出来る社会を目指す。 ・歴史に学びつつ、先進技術がもたらす経済発展にも常に注目し、創造性豊かに理想的なヌナブトを構築する。</p>		